

競 技 注 意 事 項

- 1 本大会は、2015年度日本陸上競技連盟競技規則並びに本大会実施要項・監督会議申し合わせ事項により実施する。

2 招集について

- (1) 招集所は、競技場正面玄関向かい側に設置する。
- (2) 招集開始時刻と完了時刻は次のとおりとする。(競技開始時刻を基準とする)

	予選・決勝		招集開始時刻	招集完了時刻
トラック競技	予選	1～5組	35分前	20分前
		6組～	20分前	5分前
	決 勝 ※)		30分前	15分前
フィールド競技	決 勝		45分前	30分前

※) 800mと1000mはタイムレース決勝のため、予選1～5組の時間帯で招集を行う。

- (3) 招集開始時刻に点呼を開始し、招集完了時刻には競技場所への誘導を開始する。したがって招集完了時刻に遅れたものは、当該種目に出場できない。
 - (4) 招集は本人が直接行い、競技者係からユニフォーム・スパイク・ナンバーカードの点検を受ける。
トラック競技は、腰ナンバーカードを受け取り、右腰やや後方につける。
 - (5) 競技を棄権する場合は、招集完了時刻までに棄権届を提出する。(用紙は、招集所に準備する。)
- 3 リレーオーダー用紙は、予選は選手受付、決勝は招集所で配布する。用紙は、招集完了時刻1時間前までに招集所の競技者係へ1部提出する。
 - 4 全天候舗装走路では火傷の危険があるので、素足での競技参加は禁止する。
 - 5 1000m、800mを除く種目では、スパイクを使用してもよい。ピンは全天候用とし、長さは9mm以下、本数は11本以内とする。
 - 6 60m、100m、80mH、4×100mR、中学100mは予選と決勝を行う。
このうち、60mと100mは予選のタイム上位8名が決勝に、次の上位8名が9～16位決定レースに進むこととする。
1000m、800mはタイムレース決勝とする。
 - 7 トラック競技のレーン順、フィールド競技の試技順はプログラム記載の通りとする。
決勝レースのレーン順は、記録情報で決定し掲示板に掲示する。
 - 8 短距離・ハードル種目のスタートはクラウチングスタートを原則とするが、スターティングブロックは使用しなくてもよい。スタンディングスタートも認める。
また、スタートの合図は日本語(「位置について」「用意」)で行い、同じ競技者が2回不正スタートをした場合に失格とする。

- 9 リレー競技において、テイクオーバーゾーン10m前のブルーラインからのゾーンの使用を認める。また、最大50mm×400mmの粘着テープをマーカーとして1カ所使用してもよい。その際使用するテープは各チームで用意し、レース終了後にはがすこと。
- 10 80mHは、ハードルの高さ70cm、インターバル7m、台数9台、スタートから第1ハードルまで13m、最終ハードルからゴールまで11mとする。
- 11 フィールド競技は、すべての試技を計測する。
- 12 走幅跳は本部前ピットで男女とも実施する。一人3回の試技とし、ベスト8は行わない。
- 13 走高跳の跳躍方法は、はさみ跳びとし、マットへは足裏からの着地とする。背、腰から落下した場合は無効試技とする。また、バーの上げ方は、以下の通りとする。

	練習	1	2	3	4	5	以降
男子走高跳	1m10	1m15	1m20	1m25	1m30	1m33	3cm 刻み
女子走高跳	1m05	1m10	1m15	1m20	1m25	1m28	3cm 刻み

同一の高さに挑戦できるのは3回までとするが、同一の高さでなくとも3回続けて失敗した場合は失格とする。

助走路にマーカーとして使用するテープは2カ所までとする。その際使用するテープは選手が用意し、競技終了後速やかにはがすこと。

- 14 ボーテックス投は、競技場備え付けのボーテックスを使用し、助走距離は15m以内とする。一人3回の試技とし、ベスト8は行わない。
- 15 表彰は、各種目第6位まで賞状を授与する。アナウンスで成績発表後15分後に表彰者待機場所に集合すること。もし、間に合わなかった場合は、待機場所で賞状を受け取ること。